



1_WALL

第11回グラフィック「1_WALL」展
2014年9月29日(月)～10月23日(木)
公開最終審査

2014年10月8日(水) 6:00p.m.～9:30p.m.

FINALISTS ※五十音順

山川友美 河野裕麻 田淵正敏 中島あかね 寿司みどり 田岡菜南

Grand Prize REPORT
Graphic

受賞作 『ゆっくり深呼吸してからはなしましょう』

いつもあるのは
ずって はいて 浮かんでる
ことばではない「なにか」です。
人にみられずに、入道雲みたいにぐんと大きく育て

第11回グラフィック「1_WALL」グランプリ 中島あかね | Akane Nakajima

「言葉になる前のふわっとしたイメージ」を
つかまえた作品に、審査員が可能性を感じた！



中島あかね Akane Nakajima
1992年生まれ
武蔵野美術大学造形学部視覚伝達
デザイン学科4年在籍

審査員コメント ※五十音順、敬称略

居山浩二 (アートディレクター・グラフィックデザイナー)

「今回の中で際立っていたポートフォリオだった。その魅力を知っているだけに、今回の展示はちょっとなあと感じる」

大原大次郎 (グラフィックデザイナー)

「ポートフォリオを見た時から一番気になっている。このまま見ていたい気もするし、世に一度作家を出しちゃえよという気持ちも」

都築潤 (イラストレーター・グラフィックデザイナー)

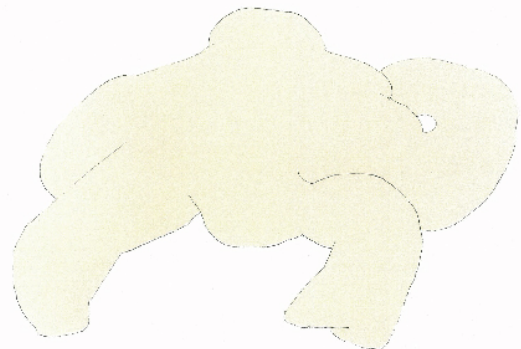
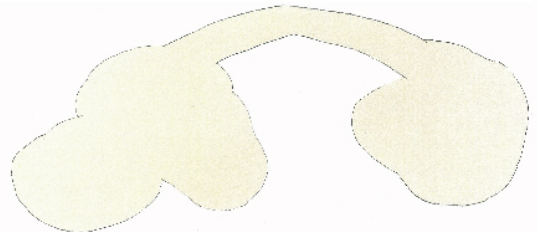
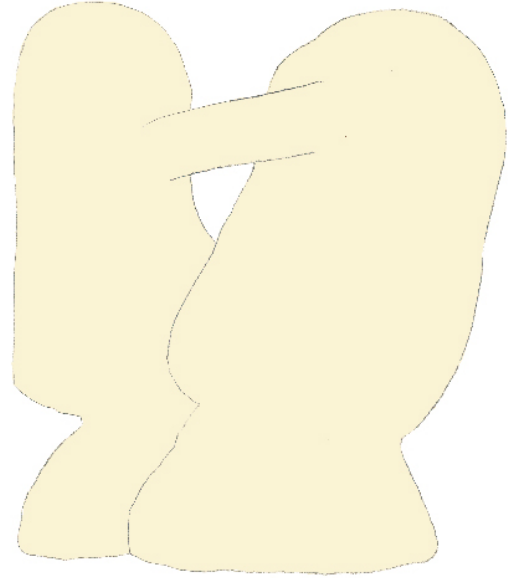
「ポートフォリオがとてもよかった。意外と真つ当なテーマ」

長崎訓子 (イラストレーター)

「ポートフォリオを見た瞬間、わあっと感情が高ぶった。自分のできる範囲でと言っていたが、もっと範囲を広げていいのでは」

室賀清徳 (『アイデア』編集長)

「形だけ見ると面白いが、説明されると説得力がなくなる。だが、それを含めてもいい仕上がりに思う」





山川友美 Tomomi Yamakawa

『ユニハイム市岡II』



大阪から東京にマンションをまるごと(住戸のキーホルダーを)持ってきた。近所のマンションに住む住人みんなを訪ねて家の鍵についているキーホルダーを借り、それを壁一面に展示。親近感を抱いてもらうために、私なりのノンフィクションの延長線上にある作品を制作した。

〈質疑応答〉

- 室賀: どういった基準でこのマンションを選んだの? 自分が住んでいるの?
- 山川: オートロックがなく、扉が全て同方向に向いているマンションというルールを決めて、一番近所にあったマンションを選んだ。
- 長崎: 親近感を抱いてもらうため新作を展示したというのは、どういうこと?
- 山川: 最近のものを展示した方がフレッシュであり、観る人もリアルさを感じられるかなと思った。

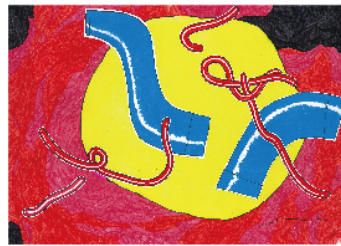


1 T



河野裕麻 Yuma Kawano

『すべての私をつかまえて』



感情の視覚化をテーマに制作。普段、私は人と会話をする時に、自分の気持ちをなかなか言葉にできずにいる。言葉にならないその感情を絵で表現したいと思った。個展では会場をシアターに見立て、絵をベースにアニメーション作品を上映したい。

〈質疑応答〉

- 居山: 上下に分かれて横は繋がっている、この作品の展示方法に意図があるの?
- 河野: 配置が気になるなどと考えずに絵に集中してもらいたいという思いがあり、個性を出したりくせをつけたりしないように配置し、展示をしたつもり。
- 大原: アニメーションにした時の言葉の扱いはどうなるの?
- 河野: 今回と同じように言葉と向き合った作品をつくるつもりだが、感情と言葉が繋がる前の原型みたいなものに迫っていききたい。

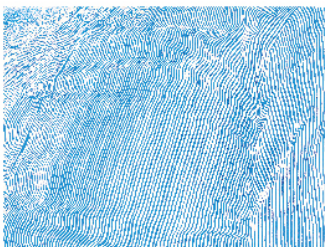


2



田淵正敏 Masatoshi Tabuchi

『statue』



statueとは彫像のこと。絵の具を塗って剥がして浮かび上がる像と、絵の支持体である石膏を表現した。今作品のモチーフは、ありふれた日用品の中から選択したものを。シャツを身にまとった時の布の起伏や凹凸を、作品へと落とし込んだ。

〈質疑応答〉

- 長崎: シャツの絵のトリミングの位置はすべて同じ場所なの?
- 田淵: だいたい同じ場所です、一番陰影の出る腕の部分とボタンやポケットのある位置をトリミングし、シャツと認識できるようにした。
- 室賀: 作品制作の際、モチーフ選びに基準やルールがあるの?
- 田淵: 一色しか使わずに線の密度や濃淡だけで柄を表現してさまざまなパリエーションの柄に見せたかったので、そうした表現ができるモチーフを選んだ。

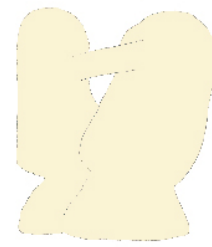


3



中島あかね Akane Nakajima

『ゆっくり深呼吸してからはなしましょう』



言葉になる前の何物でもない漠然としたイメージがテーマ。それは言葉よりものびのびと生き物のように存在しているはず。こうして制作することにより、言葉ではないなにかに作品を近づけていきたい。本作品はグラフィックとは言えず、ジャンル分けができない。今後の作品をつくる上での源流となるものになった。

〈質疑応答〉

- 居山: 全体的に淡い色調だったり紙が難いであったり、何物にも見えにくいというよりもフォルム自体が見えにくい、意図があるの?
- 中島: そこは自分でも問題があると感じている。一枚の紙にひとつの絵を描いてたくさん並べるといったことも考えたが、違うことにチャレンジしたかった。
- 大原: グラフィック作品ではないという考えはどういうこと?
- 中島: 線や形はまだ何にもなっていない、くすぶっている状態だということ。

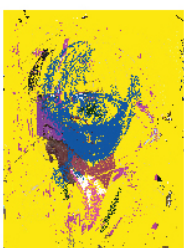


4



寿司みどり Midori Sui

『肖像』



今作品は、今の自分ができる最大限の技法を使って制作。生々しさにプラスして反省すべき点が多ければ多いほどいいと思い、そういった基準でこの3枚の絵を選んだ。個展でもデータを使って、大きな人物画などを展示していきたい。

〈質疑応答〉

- 菅沼: 半年前にファイナリストになった時はアナログ作品だったはず。今回はデジタルフォトフレームを使っているが、半年でどういう心境の変化があったの?
- 寿司: 人物であれば素材はなんでもいいという気持ちがあったのと、ディスプレイによる妙にピカピカした感じが逆に現代のリアルさを感じさせるかなと思った。
- 都築: 生々しさやリアルという言葉を使っているがこれはデジタルだからこそ?
- 寿司: 毎日パソコンやスマホを見ている私たちが観るからこそ、デジタルがリアルさや現実感を出してくれると思っている。



5



田岡菜甫 Naho Taoka

『写し』



身体やその反応に興味がある。動物的なものだったり原始的なものだったり、そういった咄嗟にでる反応は誰しもが共有できるもの。これらを作品に落とし込むために、今回はトレースというルールを自分に課し、複写の連続で作品をつくりあげた。

〈質疑応答〉

- 菅沼: 個展プランについて詳しく教えてほしい。
- 田岡: 基本的にはドローイングを中心に、キャンバスも展示したい。内容としては今回と変わらないテーマのものをつくりたい。
- 室賀: トレースする大元の絵が写実的ではなく、漫画のようなものなのなぜ?
- 田岡: 単純に漫画のような絵が好き。どこかで見たことのあるような絵だとよく言われる。



6

■審査員の感想

プレゼンテーションと質疑応答が終了し、今回の「1_WALL」展に対する全体的な感想を一人ひとりが語る。都築さん：「こちらが考えさせられるようなプレゼンが多く、昨今ない審査会になった」。長崎さん：「とても興味深かった。初めて自分でもメモをとった」。大原さん：



「今日、展示を見るのを楽しみにしていた。今回は展示だけでなく、ポートフォリオと合わせて評価をしたい」。居山さん：「今回展示してくれたものと個展のプランを合わせて評価しなければと思うが、今回とても難しい。室賀さん：「今回は内省的な、悪く言えばナイーブでビュアな作品が多かった。グラフィックの原型のような、何かをひとつの媒介として印づけていきその集積が提示されている作品が多いと感じた」。

引き続き、ファイナリスト一人ひとりの作品について感想が発表される。



●山川さんの作品について。都築さん：「本人はキーホルダーで壁一面が埋まる予定だったのかもしれないが、この少なさがまたリアルでいい。大原さん：「ポートフォリオがすごく謎で興味深かった。あの感じを展示でも見たかった」。室賀さん：「全体的に味があるが、もう一息という部分も」。居山さん：「キーホルダーがいっぱいになるころも見てみたい気がする。このプロジェクトを続ける意味があるかはわからないが」。長崎さん：「彼女の考え方や思考に、なるほどと感じさせられた」。

●河野さんの作品について。都築さん：「絵に意味があるのかなという想像できて面白かった」。室賀さん：「モチーフや構成にとても現代性を感じる。プレゼンテーションが素朴だが、実はそこに意図があるのではないか」。居山さん：「こういう作品をつかった先人たちはいっぱいいるわけで、それを知る行為が必要だと思う。長崎さん：「ビビッドな色使いが好き。いろいろと説明してくれたが、絵の強さだけで十分勝負できる」。大原さん：「これを絵コンテとしたアニメーションを実際に見てみたい」。

●田淵さんの作品について。都築さん：「好きな作品。完成度も高い。だが、もっと面白く説明できるし展開できるはず」。居山さん：「線描写で一貫しているところがいい。成功しただ」。

長崎さん：「純粋に素敵な作品。うまくまとまっているなという印象」。大原さん：「絵の視点と距離で見え方が違うという話が面白かった。とても興味がある」。室賀さん：「今回の中で一番ざっばりしている。表現方法だけにこだわらずにもっと掘り下げてもいいのかも。もうひと味欲しい」。

●中島さんの作品について。大原さん：「ポートフォリオを見た時から一番気になっている。このまま見ていたい気もするし、世に一度作家を出しちゃえという気持ちも」。都築さん：「ポートフォリオがとてもよかった。意外と真つなテーマ」。長崎さん：「ポートフォリオを見た瞬間、わあっと感情が高ぶった。自分のできる範囲でと言っていたが、もっと範囲を広げてもいいのでは」。室賀さん：「形だけ見ると面白いが、説明されると説得力がなくなる。だが、それを含めてもいい仕上がりだと思う」。居山さん：「今回の中で際立っていたポートフォリオだった。その魅力を知っているだけに、今回の展示はちょっとなあという感じがする」。



●寿司さんの作品について。室賀さん：「きっぱりというか、さすがしさを感じた。液晶画面は次世代のメディア感を出すというよりも、日常的なタブローになっている。都築さん：「額がなければ面白くないし、絶妙なバランスできている作品だ」。長崎さん：「よくわからないようでは実は筋の通ったプレゼンテーションだった。絵がうまいし、魅力的」。大原さん：「データにすることによって生まれた面白さがあり、個展もぜひ見てみたい」。居山さん：「大きい作品をつくるって、個展プランについても気になっている」。

●田岡さんの作品について。都築さん：「紐や木枠の展示方法が面白かった」。居山さん：「この手の作品よりも、ポートフォリオで見たちょっとイラッとする顔を描いた作品に面白さを感じている」。大原さん：「居山さんの言うように、彼女の中には2タイプのシリーズがあるようだ」。



ポートフォリオの方がインパクトは強い」。長崎さん：「存在感がある。ファニーな雰囲気があり、そこが魅力のひとつ」。室賀さん：「全体のしかけや構成がいろいろとあるが、まとまりが感じられなかった」。

■審査員による投票

各ファイナリストへの感想を聞いた後で、いよいよ最終審査へ。各審査員がファイナリストの中から2人を選び、順々に発表していくことに。投票の結果……

大原／田淵・中島
居山／田淵・中島
都築／田淵・田岡
室賀／田淵・中島
長崎／中島・田岡

投票結果は、田淵 4票／中島 4票／田岡 2票となった。

田淵さんと中島さんが4票ずつ獲得してトップに並ぶ。田淵・中島の組み合わせ以外に票を入れた都築さん、長崎さんにそれぞれ田淵、中島に票を入れた理由を話してもらおう。都築さん：「田淵さんは、いい線行っている。個展もうまくやってくれそうだった」。長崎さん：「田淵さんの作品も迷ったが、中島さんはなにかやってくれそう。個展でもう一度リベンジさせてあげたい」。これを受けて、田淵・中島に票を入れた大原さん、室賀さん、居山さんが2人のうちどちらかを選ぶことになった。大原さんは「2人は全く別のタイプ。田淵さんは安定しているが、今回は中島さんに賭けたい」とのことで中島さんを選ぶ。残りの2人は拳手で決めることに……。居山さんは中島さんに、室賀さんも、悩んだ末に



中島さんの方に手を挙げる。3人の意見が一致し、ついにグランプリは中島さんに決定！会場からは割れんばかりの拍手が沸き起こる。優勝した中島さんに記念トロフィーが授与され、その後ファイナリスト全員に記念バッジが一人ひとり授与される。今回も、最後まで手に汗握る公開審査が幕を閉じた。

■出品者インタビュー

●山川友美
とてもいい経験になった。自分の中でやりきった感があり、悔しくはない。中島さんのポートフォリオは見せてもらった時にとても迫力を感じていたし、グランプリをとったことはさすがだと思った。

●河野裕麻
3年前もファイナリストになった経験があるが、その時はすごく悔いが残った。今回は満足いく作品を発表することができ、自分としては嬉しい結果となった。今後も作品をつくり続け、発表していきたいと思う。

●田淵正敏
仕事でもイラストレーターとして働きながら応募し続け、今回初めてファイナリストに選ばれた。悔いを残さずやりきることができたので、満足している。今後も仕事とは別に、チャレンジしていきたい。

●中島あかね
他の方の展示作品もみんなそれぞれ良かったので心配だったが、こうして念願のグランプリを勝ち取れたことは心から嬉しい。チャンスをいただいたからには、その期待に応えられるよう頑張りたい。1年後の個展は私なりに考えて、驚きのあるものにしたい。みなさん、ぜひ見に来てください。

●寿司みどり
前回ファイナリストに選んでいただいた時よりも自分の中で完成度が増したように思う。そこには満足しているが、やはり人にいいと思ってもらえる作品をつくらないとあなと思っている。

●田岡菜穂
「1_WALL」に対して強い憧れがあったので、今回こうして出ることができてとても嬉しい。自分の計画表にも「1_WALL」に出ると書いていた。中島さんの作品はもちろん、他の方の作品や審査員の方の意見にとても刺激を受けた。

<文中一部敬称略 取材・文/金子摩耶>

■お問い合わせ先
株式会社リクルートホールディングス ガーディアン・ガーデン
〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 ヒューリック銀座7丁目ビルB1F
TEL:03-5568-8818 FAX:03-5568-0512 http://fcc.recruit.co.jp
Twitter:@guardiangarden Facebook:facebook.com/guardiangarden.tokyo

